



SMART MOBILITY CITY 2013

Supported by

国際シンポジウム International Symposium

[会議棟 6F 605-608 会議室 Conference Rooms 605-608, Conference Tower 6F]

11月25日
Nov. 25

安全・安心へ、つながるクルマ～高度運転支援システムの可能性～
Connected vehicles for enhancing safety and reassurance
– Possibilities of advanced driver assistance systems

高度運転支援システム (ADAS: Advanced Driver Assistance Systems)は、クルマをより安全、快適にするために人、道路、都市機能などにつながり、一部は基本搭載機能へなりつつあります。ADAS機能がさらに進化、普及するためには、都市インフラの整備、技術的信頼性の向上とともに、運転者のヒューマンファクターも検討すべき課題になります。この新たな人とクルマとの関係を様々な視点から議論し、その将来的可能性を探ります。また、本プログラムは、本年10月に開催された「CEATEC JAPAN 2013」、
「ITS 世界会議東京2013」との連携企画である、自動運転を共通テーマにしたシンポジウムの第三弾として実施します。
Advanced Driver Assistance Systems (ADAS) connect vehicles to its surroundings such as the people, roads, and city functions, thereby making the vehicles even safer and more convenient. Elements of the ADAS are already becoming functions that come standard equipped in vehicles. In order for ADAS to evolve further and become even more widespread, city infrastructures must be developed and technological reliability must also be enhanced. Human factors associated with the drivers are also issues that will need to be discussed. This conference examines this new relationship between people and vehicles from a variety of perspectives, and will look into its various potentials for the future.

プログラム Program

10:30～10:40	来賓挨拶 Guest's Greetings	経済産業省 製造産業局 自動車課 電池・次世代技術・ITS推進室長 吉田 健一郎 Mr. Kenichiro Yoshida, Director, Electric Vehicle and Advanced Technology Office, Automobile Division Manufacturing Industries Bureau, Ministry of Economy, Trade and Industry
[基調講演] 10:40～11:40	高度運転支援システムの可能性～ITS世界会議東京2013を振り返って Possibilities of advanced driver assistance systems -Reviewing of the 20th ITS WORLD CONGRESS TOKYO 2013	ITS Japan 会長 渡邊 浩之 ITS Japan 専務理事 天野 肇 Dr. Hiroyuki Watanabe, Chairman, ITS Japan Mr. Hajime Amano, President, ITS Japan
[セッションⅠ (プレゼンテーション)] 様々な形で高度運転支援システムに取り組む企業・研究機関		
11:40～12:10	グーグルの開発する自動運転車 Google self-driving car	Google Google-X プロダクトマネージャー アンソニー・レヴァンドスキー Mr. Anthony Levandowski, Product Manager, Google-X, Google
12:10～12:40	高度運転支援システム、ホンダの取り組み Advanced Driver Assistance System, Honda's Effort	株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター 上席研究員 横山 利夫 Mr. Toshio Yokoyama, Senior Chief Engineer, Honda R&D Co.,Ltd. Automobile R&D Center
休憩 12:40～13:40		
13:40～14:10	高度運転支援システムについての取り組み On the way to highly automated driving.	BMW AG プロジェクト・コネクテッド・ドライブ・マネジャー ミハエル・ハイムラス Mr. Michael Heimrath, Head of Projects Connected Drive, BMW AG
14:10～14:40	画像処理技術を用いた運転支援システム Advanced Driver Assistance Systems and Image Process in Technology	株式会社東芝 社会インフラシステム社 鉄道・自動車システム事業部 技監 工学博士 尾崎 信之 Nobuyuki Ozaki, Ph.D., Senior Fellow, Railway & Automotive Systems Division, Toshiba Corporation Social Infrastructure System Company
14:40～15:10	見果てぬ夢～人と車 The Infinitely Dreaming – Human beings and the Automobile	立教大学大学院ビジネスデザイン研究科委員長・教授 廣江 彰 Mr. Akira Hiroe, Professor, Dean, RIKKYO Graduate school of Business Administration
[セッションⅡ (パネルディスカッション)] ICTが切り開く高度運転支援システムの可能性		
15:10～16:40	高度運転支援システムによって交通システムはどのように変わっていくのか? Possibility of ADAS which ICT carves out "By ADAS, how does the transportation system change?"	モデレーター：立教大学大学院ビジネスデザイン研究科委員長・教授 廣江 彰 Moderator: Mr. Akira Hiroe, Professor, Dean, RIKKYO Graduate school of Business Administration
16:40～16:50	閉会挨拶 Closing Remarks	一般社団法人日本自動車工業会 東京モーターショー運営会議 SMC分科会長 森 敬一 Mr. Keiichi Mori, SMC Experts group leader, Tokyo Motor Show Operations Conference, Japan Automobile Manufacturers Association, Inc.

講演者/プロフィール



ITS Japan 会長 渡邊 浩之

1967年トヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）入社。1986年クラウンの主査に就任。1996年取締役役に就任しプリウスや燃料電池の開発などを担当。2005年には技監に就任。2009年より特定非営利活動法人 ITS Japanの会長に就任し現在に至る。



ITS Japan 専務理事 天野 肇

1982年トヨタ自動車工業株式会社（現トヨタ自動車株式会社）入社。2001年ITS企画部 交通システム開発室長、2004年IT・ITS企画部 調査渉外室長。2009年特定非営利活動法人 ITS Japan 専務理事に就任し現在に至る。



Google-X プロダクトマネージャー アンソニー・レヴァンドスキー

アンソニー・レヴァンドスキーは、Google で自動運転車のプロダクトマネージャーを務めている。2007年のGoogle 入社当時は、世界を驚かせたストリートビューのローンチにも従事していた。カリフォルニア大学バークレー校で学士号、修士号取得。



株式会社本田技術研究所 四輪R&Dセンター 上席研究員 横山 利夫

1979年本田技研工業株式会社入社。2000年Honda R&D Americas Vice President。2003年Honda Research Institute USA President。2005年株式会社本田技術研究所 上席研究員としてICT/ITSを担当。2008年未来交通システム研究室 室長を経て2012年よりITSおよび自動運転領域の研究開発を担当。



BMW AG プロジェクト・コネクテッド・ドライブ・マネジャー ミハエル・ハイムラス

BMW AGにて約30年にわたるキャリアを持ち、BMWコネクテッド・ドライブの革新的機能の基礎技術であるディスプレイ・システムの開発に長年携わる。2011年より現職。高度自動運転システムが主要テーマである「BMWコネクテッド・ドライブ・プロジェクト」の責任者である。



株式会社東芝 社会インフラシステム社 鉄道・自動車システム事業部 技監 尾崎 信之

1983年東京芝浦電気株式会社（現株式会社東芝）入社。鉄鋼・紙パルプ向けなどプラント監視制御システムの開発設計、マルチメディア技術の研究開発、デジタル放送システムデータ放送システムのエンジニアリングに従事。2003年より自動車システム事業統括部にて画像処理技術を用いた運転支援システムの研究開発を担当。2012年鉄道・自動車システム事業部にてITS技術全般を推進 技監（現職）。



立教大学大学院ビジネスデザイン研究科委員長・教授 廣江 彰

1948年生まれ。1972年早稲田大第一文学部卒、慶應義塾大経済学研究科博士課程単位取得退学、1985年札幌学院大商学部助教授、1991年立教大経済学部助教授、1993年同教授、2012年同大学院ビジネスデザイン研究科委員長。主要研究テーマは産業技術論、テクノロジーマーケティングなど。